

# 山形県保健師長会ニュースレター

令和3年2月22日 第21号 発行：山形県保健師長会

春寒の候 会員の皆様には新型コロナの対応で大変な日々をお過ごしのことと存じます。新型コロナウイルスワクチン接種はこれまで誰も経験したことのない大事業です。山形県保健師長会のチームワークで乗り越えていきましょう。

現在国では、平成24年以来9年ぶりとなる「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」の改定が、4月1日からの適応を目指して進められております。その中で人材育成を担う保健師等職員の養成も含めた感染症対策を明記する方針だそうです。この改正はもちろん新型コロナウイルス感染症の拡大を受けたものですが、保健師がこのように注目を浴び、増員に向けた動きが活発化されたことは、これまでなかったかと思えます。今、このコロナ対応により現場はピンチですが、保健師増員等のチャンスでもあります。10年先を見据え、今なすべきことを皆さんと一緒に考えたいと思っております。メール等でご意見を頂ければ幸いです。

(記:会長 伊藤京子)



全国保健師長会  
シンボルフラワーのタイムです。  
花言葉…行動力、勇気、活動的、大きな望み

## 「令和2年度全国保健師長研修会」に学ぶ

### ◆健康危機事案発生時のリスクマネジメント

#### ～新型コロナウイルス感染症対策における保健師の役割～

令和元年の年末に国外で肺炎を引き起こす感染症が話題になり…そんなに恐れる必要があるの？と、思っていたのが、R2年1月に国内でも発生し、ジワジワ迫ってきて…2月には各保健所で本格対応開始…3月末に県内でも患者が発生し、引継ぎもできない程に忙しくなってきた…4月の第1波で保健所はてんやわんや…その後しばらくは、さざ波のような発生になり、次の大きな波への備え、宿泊療養の整備…11月に受診方法の変更、わが庄内の大きな波…私個人は、「ああ、リスクマネジメントができていなかった。皆に申し訳ない。」と、思っていたところに、今回の研修資料が届きました。

平常時からリスクに備えて、発生規模や種類に応じた人員体制を考えておき、迅速な初動対応、情報収集・状況把握、分析、評価した上で次に反映…このプロセスの大切さを再認識させられました。

また、住民の方々の日常生活と感染予防、二次的健康リスクの予防、そして自分自身の通常業務との両立をどこまでわかっていたんだろうか、と、長期戦の覚悟も改めて意識しました。自分と仲間の心身の健康を守りながら業務を継続させるには、業務に優先順位をつけ、時には片目をつむって、乗り切れることも大事だということを資料を読みながら、しみじみ感じています。

自然災害を中心とした備えでは、受援のための準備も重要だと認識していたつもりなのに、いざ自分の身になると、応援してほしいけれど、誰にどう伝えて、何をしてもらうのか、まさに研修資料のとおりでした。自分の組織内・市町村の方々・他保健所と、声を出せば応援してくれる人はたくさんいて、また、医療機関をはじめ、関係機関の方々も含め、頼もしい協力者はたくさんいることに、あらためて気づかされました。

第1波とは違い、経済活動などを継続しながらの国の緊急事態宣言、誰も経験したことのない大規模なワクチン接種計画、と、新型コロナの対応は、まだまだ続きます。

「保健師の皆様、少し落ち着いたら、おいしいものを食べながら、『新型コロナの時は大変だったね』と、語り合いたいですね。」…でも、もう少し先のこと…今はまだ、皆で踏ん張っていきましょう！

(記:副会長 渡部 順子)

